

振姫（媛）終焉の地

姫王神社は、振姫を祀り、境内には振姫の御神靈と仰ぐ神石と傍に孔のあいた小さな石がおかれていた。神石は、昔から触つたりまたいだりすると怪我をするというので「けが石」ともいわれ、孔のあいてる石は「馬つなぎ石」といわれてきた。

今から九十年前の昭和四年に行われた耕地整理まで旧八字童子之城二十番地畠二十四歩に御堂があつたという。耕地整理後は八字三十三・四番の田になつた。ここがいわゆる姫屋敷跡で、男大迹王（後の繼体天皇）の母君の御屋敷と伝わる場所である。

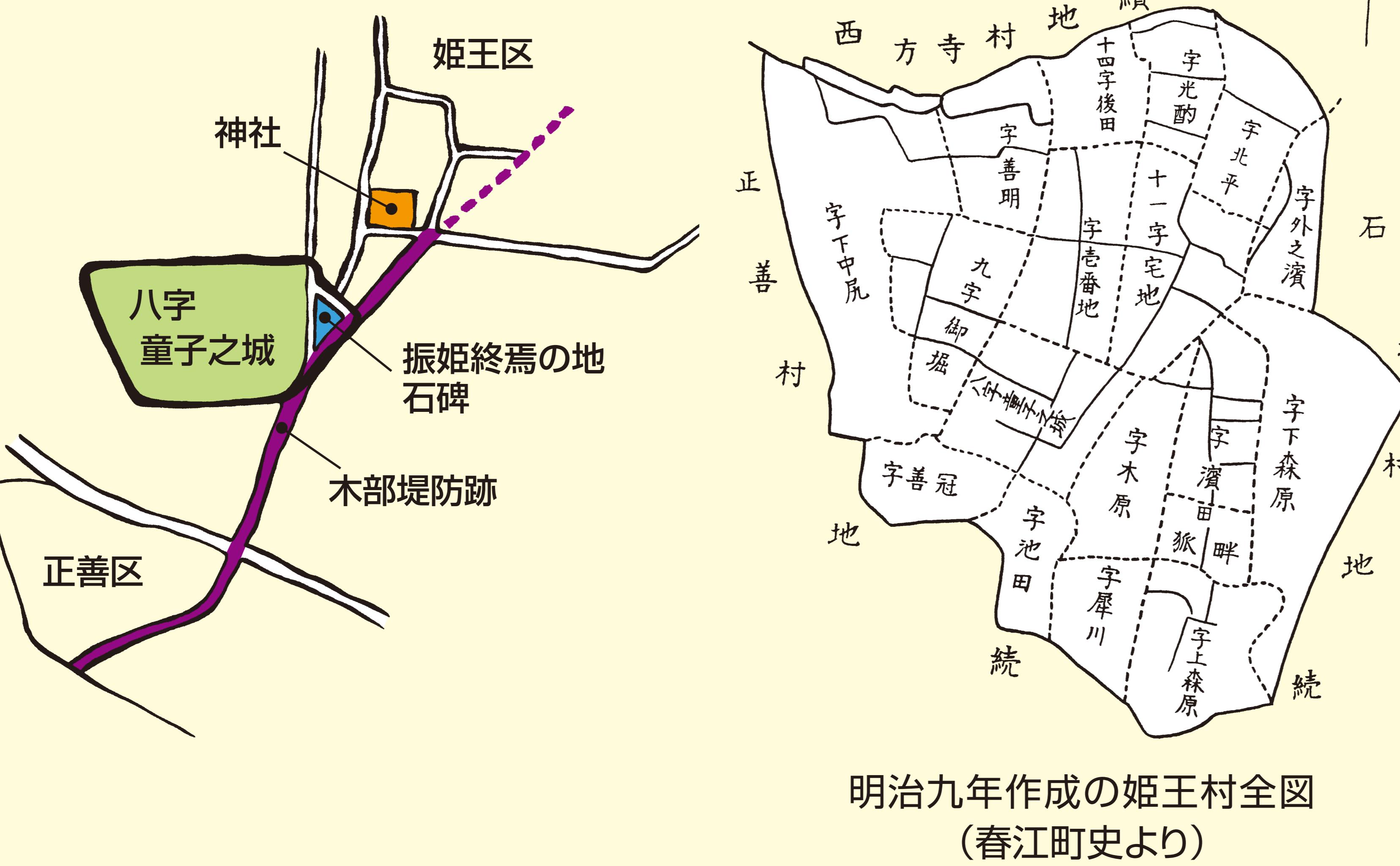
また、この地に戦国期には朝倉氏の家臣 向駿河守久家の館があつたと伝わる。（若越宝鑑由緒 高間新助文書）

昭和四十一年から始まつた県営土地改良工事は、昭和四十五年に完了し、工事前は稻作地であつた童子之城の一角に、境内にあつた「けが石」と「馬つなぎ石」を移転し、「振姫終焉の地」の石碑は平成五年春江町と地元姫王区によつて建立された。

土地改良工事の完了記念に「童子之城后屋敷跡」を後世

に残そと高間新助氏が昭和四十五年九月姫王区民に呼びかけ、区民の賛同を得て、振姫屋敷跡が整備された。高間新助氏の熱い思いがあつたことを記しておきたい。

なお、石碑の前の道路（姫王と正善を結ぶ）は、昭和二十三年の福井大震災のあと復旧を兼ねて、木部堤防（輪中堤）だった所を道路に作り変えたこともつけ加えておく。



明治九年作成の姫王村全図
(春江町史より)